

## 犬山市観光戦略 施策別シート

1

<b>重点プロジェクト名</b> <small>※ 主となるプロジェクト</small>	1 遊園ルネサンス
<b>高めるもの・方向性</b>	景観・インフラの整備（ハード施策）
<b>チャレンジする施策</b>	憩いの場、滞在の場としての内田地区木曾川河畔整備（社会実験から実装へ）
<b>施策の 取り組み</b>	<p>内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、魅力ある河畔空間の整備に向けた調査及び検討を行う。そのために現況測量、可能性調査、地域住民等との対話の場づくり（ワークショップ）、実証事業の実施を経て、基本構想を策定した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>対話の場「河畔 de カタリーヴァ」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>参加者との「おためし大作戦！」</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>実証事業「河畔 de アカリーヴァ」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実証事業として木製のパレット等も設置</p> </div> </div>
<b>令和4年度 の総括</b>	<p>現状の課題や法規制等の整理、対話の場「河畔 de カタリーヴァ」で参加者から得られた整備の意見や実証事業を展開した実績から、今後の整備に向けた4つのテーマを見出した。</p> <p>テーマとしては 1. 水の流れと人の流れ 2. KISOGAWA TERRACE 3. 緑と光の共存 4. 川辺で遊ぼう！としており、河畔空間構造の検討としては仕上げの高さの違いによる整備の方向性、さらに工作物等の設えについても整理をした「木曾川河畔空間整備基本構想（素案 プラン①～③）」を策定することが出来た。</p> <p>また、河畔 de カタリーヴァには内田住民などが参画して全6回開催された対話の場で延べ112名の参加があった。</p>
<b>今後の展開 (予定)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 構造調査、かわまちづくり計画策定準備、実証事業、対話の場</li> <li>・令和7年度 かわまちづくり計画策定、実証事業、対話の場</li> <li>・令和8年度 基本設計、実証事業</li> <li>・令和9年度 実施設計、実証事業</li> <li>・令和10年度～ 工事着手</li> </ul> <p>※ 国土交通省と連携して護岸等も一体的に整備する可能性が広がるよう「かわまちづくり計画」の策定を目指す。</p>

<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>1 遊園ルネサンス</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>景観・インフラの整備（ハード施策）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>憩いの場、滞在の場としての内田地区木曾川河畔整備（社会実験から実装へ）</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>木曾川内田地区は、観光戦略における重点プロジェクト「遊園ルネサンス」として位置づけており、今般、彩雲橋公衆トイレを整備したことで、重点プロジェクトを推進し、高質化と利便性向上に資する施設となった。また、今後の遊歩道全体の整備に向け、犬山城下町と犬山遊園駅までの回遊ルート形成に寄与すると考える。公衆トイレの設えとしては、すべての人にとって使いやすく、清潔感が感じられるよう設計・施工した。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>デザインには“犬山らしさ”を感じ取れるよう次の要素を取り入れ、周辺の市道犬山395号線と併せて令和5年6月1日より供用開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①コンセプトは木曾川鵜飼の屋形船で、屋根の一部をアールにして船体の曲線美を描く</li> <li>②北西にあるアルミ製すだれスクリーンは木曾川の水面のきらめきをイメージ</li> <li>③国宝犬山城などの周辺の景観と調和するよう、外壁には伝統色である黄土色を採用</li> <li>④各トイレ（男子、女子、多目的）にはニッチを設けて特産品である「犬山焼」を設置</li> <li>⑤男子トイレからはガラス越しに日本最古の天守、国宝犬山城を臨める</li> <li>⑥木曾川で栄えた舟運を想起できるよう、名栗調の間接照明で洗い場の手元を照らす</li> </ul>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>今後は城下町から犬山遊園駅までさらにウォークブルな空間を形成できるよう各種施策を展開して木曾川河畔遊歩道の整備へとつなげていく。</p>

<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>2 日本ライン再発見ルート</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>滞在・体験型観光（宿泊施設の充実&amp;多様な体験コンテンツ提供）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>遊覧船メニューの拡充（企画船、定期船等）</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>犬山市が保有する屋形船「若あゆ丸」を高質化する改修と遊覧船メニューの拡充を実施することで木曽川での川遊びを更に楽しむことができ、木曽川河畔空間全体の魅力を高めることを目的としている。事業者の募集にあたっては公募型プロポーザルで実施し、事業者からの提案を採択することで高質化の改修に至った。また、この事業は実業家である前澤友作氏の犬山市へのふるさと納税による寄附が財源となっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="523 763 943 1048">  <p>木曽川・犬山城の景観との調和を目指した</p> </div> <div data-bbox="975 763 1394 1048">  <p>鶯籠をイメージした照明で鶯籠の伝統に触れる</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="523 1084 943 1330">  <p>座敷席からイス席になり、快適性が向上</p> </div> <div data-bbox="975 1084 1394 1330">  <p>ゆとりある船内から鶯籠を楽しめる</p> </div> </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>木曽川の景観と調和し、木曽川や鶯籠の魅力が高められるデザインとなるよう次の要素を取り入れ、令和5年6月1日の木曽川うかい開きでお披露目・就航した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実用性と美しさを突き詰め、前方や後方まで見通しの良いデザインを目指した。</li> <li>②深緑色の外観は若鮎の背鱗をイメージし、周辺との景観に調和。</li> <li>③船内は従来の座敷席からイス席へ、定員は19名→16名へ変更して船内の快適性を向上。</li> <li>④一枚板のテーブルは木曽産の檜を使用し、木曽川の舟運によって栄えた歴史を想起させる。また、使用しない時は折り畳め、床や船底などのメンテナンスも容易な造りにした。</li> <li>⑤テーブルに設置した照明は鶯籠をイメージした。</li> </ol>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>木曽産の檜を使用したテーブルにはコンセントとUSBコンセントも完備しており、鶯籠の観覧だけでなく、企業のミーティングやワーケーションなど現代に合った新しい利用シーンも想定。</p> <p>今後は運用方法等の見直しを行い、広く活用してもらうことで収益を高めるとともに木曽川河畔空間の魅力を高めることを目指す。</p>



<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>2 日本ライン再発見ルート</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>景観・インフラの整備（ハード施策）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>栗栖の自然環境を活かしたアクティビティサイトの整備と充実</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>栗栖園地は木曽川の河川内にある広大な芝生で、普段よりキャンプ利用などで親しまれている。その隣接する箇所にて竹木伐根が令和2年度に実施され、木曽川が増水することでの影響を受けることもあったが、景観向上と園地拡張による更なる利活用や地域活性化を目的として令和5年3月に全2,250㎡の芝張りを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>芝張り 実施前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>芝張り 実施後</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>芝張りの説明時</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>芝張り実施中の様子</p> </div> </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>この事業の財源にはあいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用し、栗栖園地利用者へ現地での受付時に参加を呼び掛けることに加え、桃太郎発展会を中心とした地域住民と市職員の延べ58人が協働で芝張り作業を実施。令和4年度に予定していた範囲の芝生エリア拡張を実現出来た。</p>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>木曽川の河川敷内という自然の状況を見極めつつ、あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用して毎年芝生エリアを拡張していく。</p> <p>さらには将来にわたっても栗栖園地を持続可能かつ適正に管理できるような仕組みを作り、親水空間の充実・地域経済活性化を促進していきたいと考える。そのために、河川敷地占用許可準則で定められている「都市・地域再生等利用区域」の指定を実現するため、引き続き関係機関との協議・検討を進める。</p>

<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>3 城下町景観・環境レベルアップ</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>市民とともにある観光（市民参画・交流 ・関係人口・多様な参画）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>本町通りの在り方再構築（屋外広告物、ゴミ・音・においなどの環境）、目指す姿とまちのルールづくり</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>観光振興の関係者の努力によって観光地として賑わいを創り出す一方で、地域住民にとっては「住みづらい」まちという側面が顕在化している。この先も将来にわたって持続可能で発展し続ける「観光発展都市」であるため「住む人も来る人も楽しく豊かに過ごせること」を実現すべく取り組みを実施するとともに関係団体が集い課題改善のために協議する「SDGs観光まちづくり会議」を開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>休憩施設の設置状況①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>休憩施設の設置状況②</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>城下町へゴミ箱の設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>臨時駐車スペースの設置</p> </div> </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>持続可能で発展し続ける観光都市を目指すために本町通りの関係町内会との意見交換や令和5年7月に「SDGs観光まちづくり会議」を実施し、関係者と課題の共有等が出来た。また、R5.5のGW期間中には城下町周辺の課題を緩和出来るよう次の対策に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ箱の設置</li> <li>・休憩施設の検討と設置</li> <li>・近隣住民の為の臨時駐車スペースの検討と設置</li> <li>・警備体制の強化と質の向上</li> </ul>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>令和5年5月のGW期間中の取り組み方を見直して今後の対策に活かすとともに、持続可能で発展し続ける観光都市を目指していくために今後も関係者・各団体と調整しながら実現できることから少しずつ取り組んでいく。</p>

<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>6 クロスオーバー資源開発</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>資源発掘・創造ブランド形成（ソフト施策）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>異分野連携、多様な主体の参加による観光コンテンツ・体験メニュー開発と磨き上げ</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>観光客にとって来訪動機が高まる観光コンテンツ造成や、本市の魅力を高めることができる体験メニューを多様な主体が参加して開発することで犬山観光の認知度を高め、価値と魅力を向上させる。さらには、誰もが観光分野での活躍の場があり、少額であっても稼ぐ機会を得て、観光に関わる人が増え、犬山観光を応援する人が増える好循環の形成を実現するとともに、地域経済の活性化を図ることを目的とする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>提灯絵付け &amp; 塗り絵体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>犬山焼絵付け体験</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>花手水の設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>限定御城印の製作</p> </div> </div>
<p>令和4年度の 総括</p>	<p>シェアリングエコノミーを活用した取り組みの実績として、R4年度はメニュー数36件（うち、新規メニューは12件）延べ参加者数247人であった。 ※主なメニューはどろだんご作り、リボン作り、犬山焼絵付け体験など</p> <p>また、花手水の設置についてはコンテンツ造成だけでなく、観光客が訪れる時期の平準化や分散化にも効果があると考えている。限定御城印については羽黒城址・楽田城址などの知名度向上と新たな魅力づくり・市内の回遊促進につながる取り組みとすることが出来た。</p>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>R5以降も継続して担い手・利用者募集の取組みを実施。チラシの作成・配架、Instagramでの発信、犬山観光情報HPでの周知宣伝をすることで新規メニュー3件（継続20件）、参加者数100人を目標としている。</p> <p>花手水の設置や限定御城印の製作などの本市の魅力を高められるコンテンツについても、内容や実施時期を精査してより効果的な手法で継続して実施していく。</p>



<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>8 広域連携</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>広域連携による周遊観光の構築（市外連携型の観光コンテンツ提供）</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>県内～東海～中部～全国など圏域ごとの連携強化（名古屋市・県内自治体・各務原市・木曽川流域・昇龍道等） 城・木曽川などテーマに即した広域連携とコンテンツ造成（国宝五城・木曽川中流域・尾張藩等） リニア中央新幹線開業を意識した広域連携推進（首都圏・関西圏・インバウンドを意識した誘客）</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>圏域及びテーマに即した広域連携とコンテンツ造成に取り組む。特に「城」に興味関心を持つ観光客に訴求することで来訪動機の強い観光客の誘客につながると考える。また、ターゲットを絞り込んだ誘客に加え、「木曽川」を中心に置き、各自治体と連携することで地域としてのボトムアップと魅力向上に資する取り組みにつなげていく。さらに、宿泊を伴うような観光客の獲得に繋がるよう関東圏や関西圏でのイベントにも参加することで市内消費額を向上させる。</p> <div data-bbox="555 734 1310 1032">  <p>R4.12.17～18に国宝城郭都市観光協議会で出展した「お城EXPO2022」</p> </div> <div data-bbox="555 1048 1310 1361">  <p>R4.11.5～6に木曽川中流域観光振興協議会で開催した「River to Summit」</p> </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>犬山の主要な観光資源である「城」に注力した広域連携や「木曽川」をテーマとした取り組みは非常に有効であった。市単独では成し得ない広域で大規模な宣伝・取り組みを展開することが出来た。</p>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>各種協議会での取り組みへ積極的に参画することで、観光客への宣伝・PR及び他自治体などとの連携強化につなげていく。 また、新型コロナが収束に向かっていくことで遠方からの観光客やインバウンドの訪問も増えてくることが見込まれるため、より効果的な宣伝・誘客のスキームを検討・実践していく。</p>

<p>重点プロジェクト名 ※ 主となるプロジェクト</p>	<p>その他</p>
<p>高めるもの・方向性</p>	<p>データを活用したプロモーションの展開</p>
<p>チャレンジする施策</p>	<p>観光関連データの収集整理と分析、多様なメディアを活用した情報発信による知名度向上、目標とする数値（KPI）の設定と管理</p>
<p>施策の 取り組み</p>	<p>犬山市観光戦略における3つの基本理念に基づいた目標指標を設定して計画的に施策を推進し、観光まちづくりの将来像「犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなでつくる・みんなのための観光」の実現を目指している。目標指標の進捗把握と確認を目的として名古屋経済大学と連携しアンケート調査を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>事前レクリエーションの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>観光客へ聞き取りの練習風景</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>リトルワールドでの調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>明治村での調査</p> </div> </div>
<p>令和4年度 の総括</p>	<p>市内全8か所において教員・学生など約150名で聞き取りアンケート調査を令和4年11月・12月に実施し、観光客995名から回答を得ることが出来た。</p> <p>また、名古屋経済大学の学生が令和5年1月に開催された「第7回 犬山市長と語ろう！」やキャストヨシヅヤ犬山店で本調査の分析結果を発表した。</p> <p>※調査場所は次のとおり</p> <p>①国宝犬山城    ②犬山城下町    ③博物館 明治村          ④野外民族博物館 リトルワールド    ⑤日本モンキーパーク          ⑥お菓子の城    ⑦入鹿池    ⑧栗栖園地</p>
<p>今後の展開 (予定)</p>	<p>本アンケート調査で得られた調査結果について、前回調査時（令和元年度）の数値及び計画の目標値（令和13年度）と比較検討し、本戦略が目指す将来像に向けて各種施策を推進していく。</p>